



(写真/松川雅弘氏提供)

今回ご紹介するのはそんな『お宮さん』の一つです。福井県小浜市、城下町としての街路網が良く残されている町です。近年、町並み調査を行う機会があり、市内中央の今宮区の角に鎮座している『市蛭子神社』の前を通りました。ご本尊を祀っているだけの小さな神社で

す。遠目では木造に塗装を施したとしか見えなかったのですが、本殿まで近づいて見ると、どう見てもコンクリート造でした。

ところで、これは建築確認申請が必要な建築だろうかと変な興味を持って専門家にお聞きしました。確かに建築には違いないけれど人が入らないのなら特に申請を出す必要もない、但し防火地域の指定がある地域ならば近隣への配慮があるべきでしょうが、とのご意見でした。非常に判断は難しいようですが、やはり建築でしょうね。

さて、このお宮さんがコンクリート造だと判ったのは塗装が剥がれていたり、発華現象が起きていたことからです。プロポーションや、水引虹梁とその絵様や象鼻・海老虹梁・斗拱と垂木・高欄などの細部意匠も日本の伝統的な手法に忠実に作られていて、まあよくもここまでと脱帽の気分でした。屋根も檜皮葺のように目地が入っています。キッチュの観点からするとどうなるかは専門家に任せるとして、職人さん達の意気込みが感じられる『お宮さん』です。

周囲には木造の伝統的な民家が多く建ち並んでいます。近隣への防火という観点では合格点でしょう。余談ですが、この本殿には地酒「若狭井」が供えられています。

一福井大学・高嶋 猛

北陸の初夏まつり情報

- 武生国際音楽祭(6/3-11)武生市文化センター他/世界各国からの演奏家を招き滞在型のフェスティバルを開催。幅広く現在の音楽状況を楽しめます。
- 北潟湖畔花菖蒲まつり(6/18-25)芦原町北潟/遠く白山連峰を湖面に映す優しい表情の北潟湖を、ひとときわ艶やかに彩る約300種・50万本の花菖蒲。
- はたる祭(6月中旬-下旬)辰野市/初夏の風物詩として親しまれているはたる祭。松尾峽でのゲンジボタルの乱舞を見ることができる。
- 若一王子神社例祭(7/28-29)大町市/当地唯一の古式豊かで、にぎやかな祭り。
- 牛の角突き(6/18,7/16,8/15,9/17)小千谷市小栗山・山古志村/南総里見八犬伝にも記された1000年の伝統を誇る古式を伝承した角突き。

- 白根大風合戦(6/2-6)白根市・味方村/風を空中で絡ませ川に落とし、凧網が切れるまで引き合う豪快な行事。
- 第4回戦国のろし祭り(5/28)魚津市/戦国時代の山城「松倉城跡」等で武者行列、伝令仮装駅伝、史跡巡りウォーク、戦国やまじろ鍋などの多彩なイベント。
- 花しょうぶ祭り(6月下旬-7月上旬)礪波市/生花展、写生大会、花しょうぶ即売会、モデル撮影会などの多彩なイベント。
- 輪島祭(6/18-19)輪島市内/笹キリコが夜の街を練り歩き、獅子舞が繰り出す祭り。
- あばれ祭(7/7-8)能都町宇出津/300年前から伝えられる、高さ7mの50数本の奉燈をぶちこわす荒っばい祭。

支部インフォメーション

- 95年度北陸支部総会および付随行事
日時：5月31日(水) 12:50~16:00 (通常総会12:50~14:00、講演会14:10~16:00) /講演会テーマ「阪神大震災から何を学ぶか」鈴木 有(金沢工業大学)・室崎益輝(神戸大学) /94年度支部共通事業設計競技入選作品展
会場：福井市フェニックスプラザ大会議室
- 建築ウォッチング「長野オリンピック冬季競技大会競技施設見学会」/アイスホッケーA会場・フィギュアスケート会場・スピードスケート会場等
日時：6月30日(土) 9:00~16:00
定員：40名 参加費用：2,000円(当日徴収)
申込：往復葉書に氏名・勤務先所属・同住所・電話番号を明記し、建築学会長野支所宛に申し込む。
〒980 長野市若里500 (TEL.0262-26-4101)
信州大学工学部社会開発工学科内
- 95年度北陸支部大会および見学会(詳細は「建築雑誌」参照)
支部大会 8月4日(金)新潟工科大学
見学会 8月5日(土)柏崎市

事務局あいさつ



年明け早々の阪神大地震。5,000人を超える尊い人命が一瞬にして奪われてしまいました。防災と耐震に関して全国民が関心をもって、建築に携わる我々としては今後を語るにあたって冷静に過去・現在を分析する必要があるのではないのでしょうか。

そのような折、事務局長を2月より担当させていただく事になりました私は、慣れない土地への単身赴任のため、週末はデパートの食品売場を徘徊し、洗濯機の扱いもままならず悪戦苦闘中ですが、北陸支部のより活性化のため一肌?脱がせていただくつもりです。今後ともよろしくお願ひします。

一支部事務局・室田文男

日本建築学会北陸支部ニュース「AH!」第4号

発行日 1995年5月15日

発行 日本建築学会北陸支部広報部
木原 隆明(新潟) 尾久 彩子(富山)
河内 浩志(石川) 増田 達男(石川)
桜井 康宏(福井) 五十田 博(長野)

事務局 室田 文男・久保 香里
〒920 金沢市玉川町5-1-5
TEL 0762-20-5566 FAX 0762-60-1502

特集 女性と建築と子供たち



支部ニュース「AH!」の第4号をお届けいたします。昨年1月の広報部発足以来、年間テーマを「女性と建築」として、創刊号では石川の女子学生、第2号では富山で働く女性、第3号では福井の家庭の主婦の皆さんにお集まりいただき、それぞれ活発な議論を展開していただきました。幸いにして好評のようでもあり、2年目の本年も、残る2つの支所で女性による座談会を継続して開催することといたしました。今回は、新潟の女性建築士の皆さんにお集まりいただき、地域で取り組んでこられた「建築と子供たち」の活動にかかる情熱を語っていただきました。例によってその内容を網羅するには紙面不足ですが、表紙を飾っていただいた多くのスナップ写真からも、取り組みへの情熱と楽しさが伝わります。



女性と建築と子供たち

新潟女性動き出す

五十嵐：今日は、いろんなところで活躍していらっしゃる建築士の方にお集まりいただいたわけですが、「建築と子供たち」あるいは「女性と建築」という点では、「あすの住まい展」というものが毎年新潟にありまして、それに女性建築家の人たちが結構活躍していらっしゃるのではないかと考えております。まずそこあたりからお話を……

清水：何年か前から、職場の中でのいろんな思いなどがたまってきていたので、建築士会の中に女性委員会なり部会を求めるといような動きが出てきました。そういうものをまとめている段階で、昨年で10回になる「あすの住まい展」という新潟県の催しに声を掛けていただき、一昨年は「誰にもできる住まいのお手入れ」、昨年は「わが家が出来るまでのチェックポイント」というテーマで参加しました。その時、せっかく女性委員会が出来たんだから県内に女性会員がどれくらいいるのか拾い出して、写真にそれぞれのプロフィールとちょっとしたコメントをつけて貼り出しました。女性といっても設計だけに限らず、施工の関係、設備の関係、インテリアなど、男性と同じように広範囲に活躍しているんだなあ……ということが一番の印象でした。行政の方もいらっしゃいましたし。

五十嵐：そこに至るまでの中で、「建築と子供たち」の活動を始めたのが丁度3年前ですから、それとなく同時に進んできているような気がするんですよね。

高田：私は北蒲原の女性建築士の集まりの方に早く参加していました。建築に携わっている女性の横のつながりというものは本当に無かったですよね。だからまず1、2年はお楽しみ会的なものでもいいから、どんなメンバーがいるかということを知るだけでも非常に楽しかったのです。「建築と子供たち」の勉強会に参加しようと思ったのは、今は大人の世代だけでは「まちづくり」などはもう無理、子供の時から何かちょっと違う角度で街とか家とかを見せていかないとだめじゃないかなと自分で思っていたので参加させてもらいました。

五十嵐：佐藤さんは勉強会に最初から関わっていらっ



しゃいましたか……。

佐藤：私自身、建築士という職業が選択肢としてあるんだなと感じたのが大学に入ってからだだったので、「遅れをとった」という思いがあるんです。それで、自分がいま子育て中で、この子がどんな仕事に向いているかという時に、いろんな選択肢を与えてあげれば良いなということを感じて、「建築という仕事もあるんですよ、こんなこともやっていますよ」ということを教えてあげられる「建築と子供たち」という企画はとてもいいことだと思っています。

五十嵐：私も、大学生そして大人になってから講義してなかなか広がらないと少しもどかしさを感じていた中で「建築と子供たち」のカリキュラムを教えてください、そんなに急激には広まっていなくても努力していけば素晴らしい……という思いでやり始めたんです。そういう意味では、いろんな人と対応していらっしゃる坂爪さんはいかがですか。

坂爪：私が接するのは一般のエンドユーザーというか主婦とかそういう方が多いんですけど、やはり使い方とか住み方とかがはっきりしていないことが多いんです。まだまだ私たちも勉強不足ですが、もし子供たちとか若年層にもそういう機会があると、私たちの活動の幅も考えていかなければならないと思っています。

「親と子の建築講座」カメララリー

五十嵐：実際に勉強会や建築学会主催の「親と子の建築講座」に携わったり参加していただいたの感想はいかがですか。

清水：まずいろいろな方と知り合えたことがうれしいんですが、全部受講者として参加できると一番うれしいというのが本音です。例えば斎藤公男先生の構造の仕掛の講座で取り上げたあのドームの時に、紙でドームを作って、中央付近に一枚帯を回しただけで潰れた



清水茂子さん
(新潟県建築住宅センター)



佐藤陽子さん
(SATO設計室)

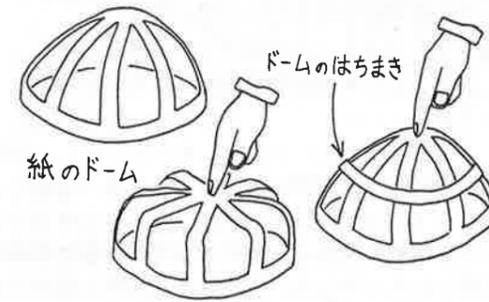


高田房子さん
(R建築設計工房)



坂爪容子さん
(東北電力「パレット」)

という、理屈では解っているんですが、実際に自分で作って体験するという、そういう単純な形で感動するという、すごく小さいうちにそういうものが出合いがあったらなあということが一番私自身で感じたことでした。



坂爪：折紙建築を見せていただいた時はとても感心したんですが、ああいうものを作ることは創造性を伸ばすチャンスだと思うんです。親子のイベントをやる時にまた応用していただけたらと思います。

五十嵐：茶谷先生の折紙建築の講座をはじめどの講座の時も親子ともども生き生きと制作に励んでいたようですが、子供の方が決断力があるというのでしょうか、これがいいと思うとすぐ取りかかるんです。大人の方はいろいろ考えすぎて、そして出来上がったものはさほど面白くないというもので、本当にそんな時は子供の能力・才能というものを感じます。

高田：家の子供に聞きますとカメララリーがだんとうに楽しかったと言います。自分でカメラを操作してすぐに出ますよね。ポラロイドを使ったあれはもうすごく喜んでね。今度、私どもの新発田で行うことになっているんですが、こんな所にこんなものがあつたのかという発見が、何十年も住んでいるのにその度にあつて、子供のみか大人にもプラスになる。とくに行政の人たちに参加してもらったらなんて思うんですが、とても楽しみにしています。

五十嵐：勉強会でも去年からカメララリーの計画を練っているのですが、これは結構エネルギーが要るんですよね。外に出ていくことで交通対策とかいろいろ問題もありますし。でも、参加者も喜び、とても楽しい講座で、何気なく住んでいる自分の街の良さあるいは問題点も分かってくるという意味で大変良い企画ですし、カメラを通してというやり方もいろいろ応用していけると思うんです。

清水：たまたま今回、県からの委託事業として学校授業の中へ建築を取り入れる試みの中で、大工さんがある中学校で講義をして実際に物作りをしました。大工さんってすごいんですよね。物作りに携わることすごく嫌って頭ばかり動かすような方向に世の中が行っているじゃないですか。情報を操作するものが世界を動かすみたいなの形ですね。だからやっぱり物作りということは楽しいことだということをお教えるような風であってほしいですね。

佐藤：学校教育で職人さんを養成してないという気がします。それに、新潟県は公共建築の方でもう少し頑張してほしいと思うのです。例えばいい小学校があれば講座を何十回聞くよりもすごい効果があると思うのです。

清水：公営住宅、学校もただ作ればいいという人もいますよね。誰もそれに反発しない形がずっと続いて、建築がそういう意味で遅れているんです。

高田：そういう建物でも、新しいと子供はカッコいいと思っちゃうんです。大人もそうなんですけど、実際いいものを見てないから分からないんですよ。家の子供にも、いろんな家に行ってみなさいと言うんです。お寺とか教会とか普段行ってみたことがないようなアッと驚くような所というのは子供にも見せてやりたいなと思います。子供には「すごいな！」となるだけかも知れませんが、本物とかいいものを見せておくと肥やしになると思うんですよね。

鹿島

KAJIMA CORPORATION

専務取締役支店長 加地 一志

北陸支店 新潟市万代1-3-4 ☎025(243)3761(代)

大成建設株式会社

北信越支店

〒950 新潟市八千代1-4-16

取締役支店長 植松 紀明



平成5年度作品 市民タイムス安曇野支社

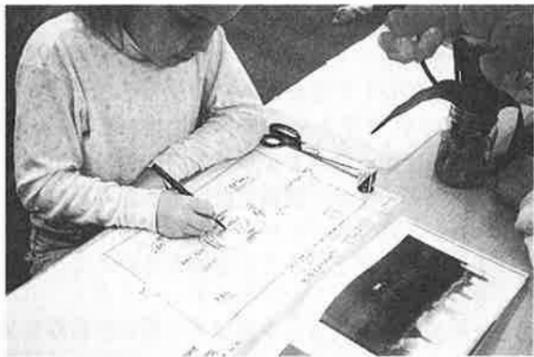
長野県松本市野溝木工1-1-30 〒399
Phone 0263-26-6765 Fax 0263-28-6765

株式会社倉橋英太郎建築設計事務所
EITARO KURAHASHI ARCHITECT & ASSOCIATES
株式会社 日本都市文化研究所

建築と子供たち

五十嵐：いよいよ「建築と子供たち」の核心に入ってきたようですが、アメリカでの取り組みを視察に行かれた木原さんいかがですか。

木原：「建築と子供たち」のカリキュラムの中に、自分たちの学校を自分たちで設計して、自分たちで体を動かして作ってしまおうという单元があります。中庭を子供たちが設計しているという例をシアトルの小学校で見ましたが、実際に設計したとおりに中庭を作りますよという課題を与えるわけですから、みんな必死になるんですよ。中庭を作るという問題自体は抽象的で漠としたものですが、池を作る、魚を入れる、どんな木がいいかなど、だんだんと子供たちを現実の問題に近づけていくわけです。そして、その授業の手伝いを地域の建築士が教室で行っている。



高田：庭を設計するなんてのはすごいですよね。

五十嵐：教室に百科事典みたいな木の本があって、それを子供たちが自分で調べるんですよ。

木原：教え込むのではなくて問題を与えるんですよ。教室には基本的な建築設計の本もおいてあって、一生懸命そういう本を読んで勉強しているんです。先生は課題を与えて「こうやれば答が見つかるよ」ぐらいなことは言うと思うのですが、この場合の答というのは設計図ですよ。

高田：正解はないんですね。

木原：正解がないというか、全部が正解で間違った答はないということですね。その辺が違いますよね。でも、アメリカの学校が全部そうなのかというと、従来の教育にあまり満足を感じないような人が自分たちの考えに沿ったことをやるために作った代替教育校で適用されているんであって、大多数の学校は日本とあま



コーディネーター
五十嵐由利子さん
(新潟大学教授)

り変わらないのでしょうか。シアトルの学校の1/6とか1/5がこういう代替教育校といわれています。

五十嵐：そういうことが出来る社会ということですね。

清水：その代替教育校もちゃんと学校として認めているわけですね。そこが問題だと思います。日本がそれをやっても絶対認められないと思います。

五十嵐：そこはふところの深さですよ。

佐藤：木原さんに建築学校を始めていただいたらどうでしょうか。

木原：「建築学校」というと少し違うんですよ。「建築と子供たち」でも「機械と子供たち」でも「電気と子供たち」でもいいんだけど、要するにプロフェッションが学校の先生と一緒にやってくれる仕組みが出来ればいいんですよ。そういう点では上越の大和小学校など身近なところにある事例もあります。「先生が教え込むだけが教育でない。人材は学校の回りにいくらでもいる」ということをプロジェクトを組んで実践されていて、建築というのも一つの教育資源になりうるということで非常に共鳴されて一生懸命やっておられる校長先生がおられるんです。

五十嵐：トップがそういう風に向きだといいいんですよ。私も教育学部の学生に「小学校の先生になった時に、建築というのはいろんなことが教えられるんだから是非思い出してやってほしい」と言っているんですが、個人でやろうとするとかなり限界があるようです。そういう意味では、建築講座や社会教育という形の中で個人がやるというのは自由ですし、今の日本の教育体制の中ではいい方法ではないかと思います。女性委員会を含めて建築に携わる人は、子供たちをいろんなところに連れて行きましょう。

清水：まあ相当エネルギーが要ることですが、折角ここまで続けてきたんだし、今年もまた力を合わせてやっていきたいと思います。

(1995年1月28日収録)

福井支所だより

直下型激震

1948年6月28日、午後5時15分。青田の中を長い煙突の付いた旧式蒸気機関車が客車4両をつないで走っていた。当時学生だった私はその先頭車に乗っていた。丸岡駅を発車して間もなく突然の異常な揺れ！ ギイというブレーキの音がした途端、機関車ははぶれて右側へ倒れて行った。制動が効かなくなった客車はまるで暴れ馬のように上下左右に揺れて突っ走る。さっきまで機関車の黒いお尻があった所には田園風景が見える。それが左、右と揺れたと思うとクルリと回転した。

やがて意識が戻り、やっと車外へ出た。私の乗っていた客車は機関車とは反対の左側の田圃の中に車輪を上にしてひっくり返っていた。車内の私達は天井に叩き付けられ、その上には重い椅子が落ちて来ていたのであった。2両目は横倒し。3両目の木製車は倒れて分解、乗客は泥田の中はうりだされていた。

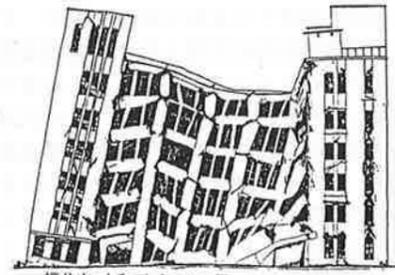
福井地震の死者数3,700余、今度の阪神大震災では約5,500。両方の共通点は直下型地震であるという。

神戸では過密都市特有の被害もあるが、橋げたの落下や住宅の倒壊、火災など福井地震と共通の被害も多い。この橋げた落下に対しては、当時福井大学建築学科の坂部教授は、橋支承部に持ち送りを付けて落下を防ぎ、ライフラインを保つことを提唱しておられた。しかし、今度の地震で落ちた橋にはこの対策が施されていたようには見えなかった。木造住宅の倒壊もまず1階そして2階と、福井と同じパターンの被害が繰り返された。

あれから47年経った。福井地震の教訓はどれほど生かされていたと言えるのであろうか？

今度こそ、震災経験を生かした立派な復興が達成されることを切に祈るものである。

—福井大学教授・川上英男



福井市 大和デパートの震害 (1948. 6. 28)
"The Fukui Earthquake, Hokuriku Region, Japan"
G.H.Q., Far East Command, Feb. 1949

長野支所だより

葬式とポストモダン



最近身内に葬式があった。農家の曾祖父96才の大往生である。それにしても、自宅での葬儀に対する農家住宅の見事な変身には感心した。本日あるを予想し、それぞれの役を受持つ

それぞれの村の衆によって、ごくあたりまえに進行してとどこうりがない。誠意のこもった立ち居振舞に、形と秩序を与えるユニバーサル空間の出現が気づかって力があつた。

ここは信州北信流の里である。亭主役を初めとする様々な役による役割分担は、親分、子分、というお役目の仕切によって間仕切られる。お茶の間と座敷、奥座敷にいたる建具は勿論のこと縁側や外部建具のとりはずしは、たちまちにしてワンルームの出現とは相なった次第であります。かのミースもレスイズモアと宣言をしてみたが、この原則を日本の農家住宅がすでに実現していたのです。

司祭者のいない空間で、死者と共に食事し、なごやかに語り合う姿は、建築家という司祭者による空間にはない不思議な応答が存在するものです。ただ地域に共生する家族の肖像と衿持という黙示録的なアイコンとアイデアの存在を示しているかのようです。そしてこの地域という重要な生存の領域にあって儀式への参加という共同体の記憶に対し正当な評価を我々建築士は与えてきたかどうかと思うのである。

ポストモダンの後にかつぐべき神輿を捜し求めながら失われた楽園の記憶をオペレーションリサーチの対象にしてきただけではないのか。神戸での地震に対する混乱と混沌に接し、現代市民は未だに地震といかにつきあうべきか悩まされていません。村の共同体の人々の葬儀の知恵の水準ほどには、いまだ都市の市民は市民としての親分子分や亭主役を見出しかねております。そして建築士の社会的責任を論ずるまえに、さりげなく役割に参加していることの大切さと、それを可能にしている空間の知恵の大切さを痛感した次第です。

—後澤建築設計事務所・後澤 裕



技術。歴史への約束。

飛島建設株式会社

取締役社長 石原 昭一郎 取締役北陸支店長 三代 修一郎
本社/東京都千代田区三番町2番地 TEL(03)3263-3151(代)
北陸支店/福井市宝永4丁目9番13号 TEL(0776)23-0723(代)

幸せの1ページに一枚の写真。



山岸写真館

福井大学前通り TEL. 23-3602(代)

名簿管理
会員管理
文字情報管理

HOPE

(有)ワープロセンター HOPE

☎0778(24)1146

FAX(22)8587

福井県武生市東千福町21-4



「明日をかたちに 創造と技術に夢を」

株式会社 山下設計

代表取締役社長 柴田 寛二

〒140 東京都品川区南大井6丁目26番1号 大森ベルポートA館
電話:(03)5471-5511(大代表) FAX:(03)5471-5491
北海道・東北・東関東・横浜・中部・関西・九州・新潟・長野
釧路・青森・福島・金沢・京滋・神戸・広島・熊本・ニューヨーク

“うち”と“そと”との美意識のずれ



外国の人達から、京都や奈良の日本の歴史的な建築の美しさに感嘆する声がきこえてくる。しかし、何故か、東京を初めとして日本

の現代都市が美しいという声はきこえてこない。

日本人の文化水準や美的感覚の高さは、世界のレベルに劣るものではないことは多言を要しないだろう。ごく普通の日本人も美しいものを常に大切にしている。身近に例を挙げれば多くの家には床の間があり、そこには美しい花が生けられ掛け軸が掛けられている。つまり、“うち”には高い美意識が生きている。

しかし多くの外国の建築家から指摘されるまでもなく、日本の都市景観はお世辞にも美しいとは言えない。私が外国へ行って強く感じるもののひとつに都市景観の美しさがある。彼等は“うち”を美しくするとともに、“そと”の景観美について意識が行き届いている。それと比べて日本人の高い美意識にもかかわらず、街が美しくないのは大変残念なことである。

私は、旧城下町都市新発田に住んでいるが、訪れる人々から、新発田に来ると“やすらぎ”を感じると言われる。現代の日本人は、歴史的な建築や街並みの中に多くの魅力を感じるようだが、景観美の少ない現代都市の街並みからは美の感覚が満たされないのだろうか。

建築や都市計画に関わる我々は、建築の“うち”は勿論だが“そと”にも日本人の美の感性に相応しい景観を創り出し、“うち”と“そと”で美意識のずれが生じないように努力を求められているのではないだろうか。

一新発田建設機技術士(都市及び地方計画)渡辺幸二郎

中年男の旅日記



エコノミークラスの座席シートで海外へ出かけられた方々は誰しも痛感されたことではないかと思いますが、海外へ出かけることが初めての私にとって満席の飛行機で成田を経

ち、オランダのスキポール空港に降り立つまでの12時間と言うものは、学生時代に満員の夜行列車に座って東京に着くまでに感じた居たたまれない苦痛で、スキポール空港に降り立った時の一伸びは大変心地よいものでした。そんな心地よさもつかの間、ノルウェーのオスロまでさらに小一時間、苦痛を旅の友として1日目を終えたのでした。

さて、2日目以降の苦痛はと申しますと、言葉や習慣等の不自由さからくる苦痛ではなく、身体的寂しさともいいましようか、北欧の人達の身長が高いと言うことはスキポール空港に降り立ったときから実感していたのではありますが、足の長さの違いをあらためて実感させられたのは2日目の昼食に入ったレストランで、こともあろうにトイレで遭遇したのでした。

日本にいるときは何の不自由さもなく使用している便器なのに、私の身体の一部が、器に触れずに辛うじて用を足すことが出来る取付高さなのです。しかし、この高さまではまだ良かったのですが、オランダの大学を視察した時に使用したトイレは最悪でした。私の足が短いと言ってしまうと、それまでののですが、事もあろうに、つま先立ちでなければ、私の身体の一部が器に触れ用を足すことが出来ないので。普段、私たちが何気なく使用しているものでも、高さが多少変わることで使いづらくなることをあらためて知らされた思いがしました。

一旅の苦痛より/富山県土木部建築住宅課・横山新一

「NHẬT BẢN - VIỆT NAM VÀ TÔI」 日本とベトナムと私



私はベトナムの留学生です。日本にきてもう一年たちました。現在、石川高専で建築を勉強しています。日本に来る前は、ベトナムのBACH KHOA POLYTECHNOLOGY (百華工科大学)の2年生でした。近年、ベトナム政府

のDOIMOIという政策で、多くの学生が各国に続々と留学するようになりました。私が、留学先を日本に決めた理由は、世界中で経済や建築が一番に発達している国は、日本ではないかと思ったからです。

初めて日本(東京)に来た時、何を見ても非常に珍しいと思いました。そこでは、高層ビルの街を大勢の人々が歩いてたし、朝のJRや地下鉄の人の多さを見ても驚きました。そして、デパートは明るく品物が多くてきれいに並べられているので、見るだけでも楽しいです。

それと比べて、ベトナムでは高層ビルはまだ無いようです。高くても20層までです。ホーチミン市のような都市の中には電車が無いので、皆が自転車やオートバイに乗って通勤しています。車を持つ人がまだ少ないです。都会では田舎から仕事にきた人で、人口がどんどん増えています(ホーチミン市約400万人)。今、外国の援助で、たくさんの建物が建ち始めています。建築の大学はホーチミンには一つなので、就職は問題ないですが、他の分野はまだ就職は難しいです。もっと経済が発展し豊かになり、皆が幸せに暮らしてゆける国になってほしいと思います。日本の政府に恵まれて、私の日本での勉強がついに実現しました。骨身にしみてありがたいと思います。国に役立つ人間になるよう、これからも頑張りたいと思っています。

—LÊ ANH DUONG (レー アン ユン) 22才

シリーズ北陸の酒～白山水系の銘酒～

私が住んでいる松任市の住宅地のすぐそばに、ほんの2年ほど前、「地酒蔵」という名のかわいいお店が開店した。仕事の帰りに好奇心でのぞいてみると、全国の定評ある地酒が陳列されていた。その頃、フルーティな生酒を居酒屋などで口にしたことのある私は、その類のお酒を選びたいと思った。全国の日本酒に詳しい店主は、私の注文に応じて、新潟や四国、お隣の富山から地元でいたるまで、いくつかの銘酒を紹介してくれた。それらをいっぺんに買い求めたのでは出費がかさむ。その都度別の銘柄の小瓶を一本だけ買って帰り、試し飲むことにした。そうして毎晩一口一口味わいながら、最終的にたどりついたのが、「手取川」の「あらばしり」という酒であった。全国の酒から探し出したのに、なんとこの「手取川」は、地元松任の酒であった。先頃、県外の酒通の人が、日本で今一番旨い酒なんだ、と誉めていた。

松任は加賀平野の米どころで、白山水系の水の旨い土地がらでもある。手取川とは白山水系の代表的な河川の名を取っている。松任にはほかに「天狗の舞」もあり、隣の鶴来の「菊姫」などととも全国的に名の知られた銘酒が、この地域に集中していることになる。

「あらばしり」とは、その年の初めに絞るものを指すという。ワインでいえばヌーボーであろう。したがって、その年の酒の仕込具合、出来具合が、この「あらばしり」で知れるのである。この記事のために改めて昨今、「地酒蔵」に寄って「あらばしり」を一本買った。吟醸生酒、要冷蔵である。今年は例年にも増してあつみのある味わいであることから、これから出る今年の各「手取川」は期待できるとは、店主の弁である。

フルーティな自然の甘味に、あつみのある味わい。日本酒とはこんなに美味しいものだったのか、と感嘆している。製造量が少なく、短い期間で売り切れてしまうので要注意である。 —広報部会・増田達男

シリーズ隠れた建築紹介～コンクリートのお宮さん～

方々の町を訪れた時ほっとするものの一つに街中の『お宮さん』があります。周囲の景観がすっかり変わっても、そこだけはぽっかりと歴史が生きているからでしょうか。

—豊かな新時代に貢献する—

電機・消防・通信設計施工

株式会社 浪速電機工業所

代表取締役 草野 繁

富山市荒川58 TEL(0764)41-7878(代)
FAX(0764)41-7883

有限会社 **春田屋ウインドー**
家具店舗

 創業 昭和30年

〒930 富山市五福末広町1444-1
☎(代) (0764) 32-0068
FAX (0764) 33-7805
一級建築士事務所 県知事登録(1957号)

日本最大の工科系単科大学

金沢工業大学

石川県野々市町扇が丘7-1 郵便番号921 電話(0762)48-1100

<p>●工学部</p> <p>機械工学科・機械システム工学科 電気工学科・電子工学科 情報工学科・経営工学科 土木工学科・建築学科 物質応用工学科・人間情報工学科 環境システム工学科</p>	<p>●大学院・工学研究科</p> <p>●博士課程(前期・後期) 機械工学専攻・電気電子工学専攻 情報工学専攻・土木工学専攻 システム設計工学専攻・材料設計工学専攻</p> <p>●修士課程 経営工学専攻・建築学専攻</p>
---	---